

第1学年 道徳学習指導案

平成30年2月9日（金）4校時

1年3組30名

授業者 大兼久 太三

1 主題名 「くじけない心」 A4 希望と勇気、克己と強い意志

2 資料名 「木箱の中のえんぴつたち」 （出典：「明日をひらく」沖縄県版 東京書籍）

3 主題設定の理由（指導観）

（1）価値観

本主題は、内容項目A4希望と勇気、克己と強い意志「より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。」をもとに設定したものである。自分自身で目標を設定し、その達成を目指すことは、日々の生活や人生を充実したものにす。しかし、目標の実現には様々な困難を乗り越えなくてはならず、困難や失敗を経験することもある。逆境から立ち直り、目標に向かって努力し続けるには、困難や失敗を受け止めて希望と勇気を失わない前向きな姿勢や、柔軟でしなやかな思考が求められる。

中学校の段階では、希望と勇気をもって困難を乗り越える生き方に憧れをもつ年代である。しかし、希望に燃え、将来に向けて大きな目標を立てるものの、理想通りにいかない現実に悩み苦しむことも多い。

そこで、希望をもつが故に直面する困難や失敗の体験を勇気をもって受け止め、自己を振り返る活動を通して、目標の実現には困難や失敗を乗り越えることが必要であると実感させ、困難や失敗を乗り越えるために大切なことを考えさせたい。

（2）生徒観

本学級は、「やってみよう」を合言葉にして、「勇気」をもって何事にも挑戦しようという雰囲気大切にしている。各行事においては、やったことがないことに積極的に挑戦しようとする姿も見られる。一方で、ほんの小さなつまずきで自暴自棄になったり、殻に閉じこもるなど、弱さも見られる。自己を冷静に見つめれば見つめるほど、自分の弱点や至らない面ばかり目につき、他人との比較において劣等感を感じ、たった一度の失敗で自分を全否定してしまう生徒もいる。生徒にはは障害や困難にしっかり向き合い、強い意志を持って乗り越えていこうとすることの大切さや難しさについて考えさせたい。

（3）教材観（資料観）

作家を志すが思うようにならず、挫折感にさいなまれていた「私」は、父から木箱の中の何百本というえんぴつたちを見せられ、自分自身の甘えに気づく。二人の姿を通して、努力することの大切さを実感できる資料である。また、父がえんぴつを残していた理由について、考えることによって努力の大切さや努力することを支える思いがあることに気づかせたい。

生徒は「努力することが大切である」ということは認識している。そこで、本資料を通して、「努力は大切」とわかっているにもかかわらずそれを続けることが出来ない悩みや「努力の途中で壁にぶつかったとき、何を思い、何を大切に、どう乗り越えていくか」考えさせたい。

4 資料分析

ねらいとする道徳的価値を踏まえて記載				
場面(あらすじ)		主人公の心情の変化	発問の意図	発問
価値を 自覚し ていな い	<ul style="list-style-type: none"> 原稿を書かせてくれる出版社はなくやっとの思いで書き上げた原稿は書き直しになる。そんなことが続いた。 	<ul style="list-style-type: none"> 才能がないんだ、もの書きになんかなれないんだ。 		
価値を 自覚し 始める	父が小学校四年生のときに上級生にまじって軍楽隊員に選ばれたことを聞かされる。	<ul style="list-style-type: none"> がっかりした。 やっぱりみんな確固たる才能を持ってその道に進むんだ。 父に声をかけたことを後悔した。 		
価値を 自覚す る	父は木箱の中の何百本という短くなった鉛筆を見せた。	<ul style="list-style-type: none"> こんなにも努力を重ねて父は自分の才能を作り出したのか・・・。 絶望している自分が恥ずかしくなった。 	「私」の心の変容に気づかせ、才能を磨く努力の大切さを考えさせた。	○父親の何百本という鉛筆を見せられたとき「私」はどんなことを考えただろう。
価値を 自覚し て後	あの木箱の中のえんぴつたちと父の言葉が頭の中でよみがえる。	<ul style="list-style-type: none"> 「まだまだ・・・」と自分を勇気づける。 	えんぴつたちのもつ意味を考えさせることによって価値の自覚を深めさせたい。	○父はどうして鉛筆を残していたのか。
評 価	<p>【1時間の中で期待する子どもの姿】</p> <p>障害や困難にしっかり向き合い、強い意志をもって乗り越えていこうとすることの大切さや難しさについて考えることができたか。</p>			

5 本時の指導

(1) ねらい

障害や困難にくじけることなく、目標や理想に向かって努力する意欲を育てる。

(2) 授業の工夫

「努力は大切」とわかっているにもかかわらず、それを続けることが出来ない悩みや努力しているがその途中で行き詰まるときにどう向き合うかを考えさせ、生徒自身の生き方に関わることを深めていく。

(3) 展開

過程	学習活動と発問	予想される生徒の発言や心の動き	指導上の留意点 評価★	
導入 5分	1. 「才能」についてイメージを発表し合う。 ○「才能がある人で思いつく人は誰か」 ○「みんなにはどんな才能があるだろうか」	・イチロー ・オリンピック選手・歌手など。 ・大多数の生徒は自分には才能はないと感じる。	・雰囲気づくり。思わぬ人物名が出てたりして、やわらかい雰囲気をつくる。 ・「才能」と自分との関係について考え始め登場人物の生き方を自分との関わりの中で考えるための下地をつくる。	
展開 40分	前段 20分	2. 資料「木箱の中のえんぴつたち」を読んで話し合う。 ○父から鉛筆を見せられたとき「私」はどんなことを考えたか。 ◎父はどうして鉛筆を残していたのか。	・まだまだだな。 ・見習わなければ。 ・私も頑張ろうと思った。 ・これぐらいでくじけていた自分が恥ずかしい。 ・努力の証。 ・娘に見せるため。 ・悔しい想いを忘れないように。 ・より深く鉛筆の意味を感じる。	・「私」の心の変容に気づかせ、才能を磨く努力の大切さを考えさせたい。 ・えんぴつたちのもつ意味を考えさせたい。 ・「私」に自分を重ね、父が残したえんぴつたちの想いを考えさせたい。
	後段 20分	3. 自分自身の問題として考える ○そもそもなぜ努力するのか。 ○なぜ努力は続かないのか。 ○困難に出会ったときどう向き合っていたいか。	・目標のため。 ・自分の夢のため。 ・理想の自分に近づくため。 ・よりよい生活のため ・あきらめない気持ちを持ちたい。 ・努力を積み重ねて自信を持ちたい。 ・仲間と支え合って立ち向かいたい	★障害や困難が生じて、粘り強くやり抜こうとする「私」に自分を重ねて、自分ならどのように向き合っていたいか考えることができたか。
終末 5分	4. 本時のまとめ 説話			

(4) 評価

障害や困難にしっかり向き合い、強い意志をもって乗り越えていこうとすることの大切さや難しさについて考えることができたか。

(5) 板書計画

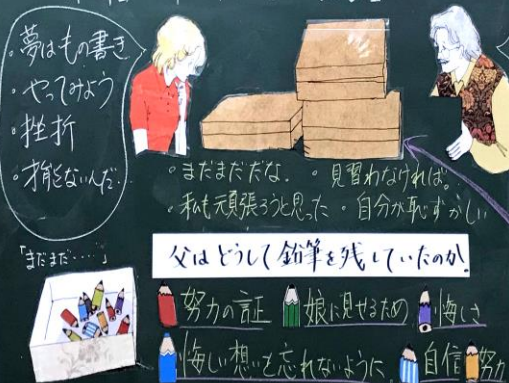
「木箱の中のえんぴんたち」

才能ある人

- ・イ子ロー
- ・真央ちゃん
- ・翔大君

才能のイメージ

- ・生まれつき
- ・特別
- ・能力高い



夢はもの書き
・やる(時)よう
挫折
・才能がない

「まだ...」

父はどしく鉛筆を残していたのか

努力の言正 娘に見せるため 悔しい
悔しい想いを忘れないように 自信 努力

才能あり?

- ・勘違い
- ・猛烈に勉強
- ・才能ある

想い

そもそもなぜ努力するのか

- ・目標のため、理想に近づくため
- ・夢のため、よい生活のため

困難に出会ったとき

どのように乗り越えていたのか

- ・絶対あきらめない
- ・努力を積み重ねる
- ・別の方法を考える
- ・仲間と支え合う